



ひとつぶの種

杭州日本人学校
学校便り第144号
令和3年1月号

令和3年のスタート!

希望に満ちた年に!!



明けましておめでとうございます。令和3年の新春を健やかに
お迎えの事とお慶び申し上げます。皆様のご多幸を心よりお祈り申し上げます。

今年も、教職員一同、杭州っ子一人一人が笑顔にあふれた活力のある学校を実現すべく
取り組んでいく所存でございます。保護者の皆様のご理解とご協力の程、よろしくお願いいたします。



昨年は、新型コロナウイルス感染症の影響で世界中が多くの困難
に見舞われました。学校は昨年1月末から3か月もの長期の臨時休
校となり、未知の病に不安が増し、心配な時期を過ごされたこと
でしょう。当たり前が当たり前でなくなってしまう、そんな経験をし
た1年でした。令和3年は皆でコロナ禍を乗り越え、希望に満ちた
年になることを願っています。

10日間の冬休みは年末年始でもあり、あわただしく過ぎたのではないのでしょうか。そ
の分、普段よりもたくさんの時間をご家族で過ごされたことと思います。12月25日の
後期前半終了式で、子どもたちへ「校長先生から冬休みの宿題」を2つ出しました。その
1つに「家族の一人として家のお手伝いをしっかりすること」があり
ます。お子様は、家のお手伝いを頑張っていたでしょうか?普段は親に
任せている家の中の仕事も、自分から進んでできていたでしょうか?
もし、できていたとしても、年末だけ手伝いをすればいいというわけ
ではありません。家族の一人として進んで役割を果たし、「人の役に
立っているな!必要とされているな!」と感ずることで、子どもは
「自己有用感」を味わいます。「自己有用感」の高い人ほど、積極的
に発言・行動をし、思いやりの心が育ち、他者と関わるのが好きに
なっていくと言われています。この年末の「自ら手伝う気持ち」をきっかけに、普段から
ご家庭で役割を決めて、小さなことでも手伝う習慣をつけていけると良いと思います。そ
して、親として忘れていけないことは、役割を果たした後に「ありがとう」「よく頑張っ
たね」と感謝やねぎらいの気持ちを伝えることです。きっとその言葉が、子どもたちの心
を育てることにつながっていきます。



「1月に行く。2月は逃げる。3月は去る。」といわれるように、この後期後半はあつ
という間に過ぎていきます。しかし、年度の締めくくりと4月からの新たな出発に備える
とても重要な時期となります。3月には6年生と9年生、そして幼稚部年長が卒業・卒
園という大きな節目を迎えます。特に6年生と9年生は、小学校生活6年間と義務教育
9年間の集大成として卒業式に臨んでくれると思います。4月になれば、他の学年も1つ
ずつ学年が上がります。それぞれの学年ごとに、進級する上での心構えは違いますが、こ
の後期後半にこれまでの1年間のまとめがしっかりとできるよう、そして自信をもって
次の学年に上がれるよう、教職員一同、精一杯支援して参ります。